

## 神の教えは「世界平和の祈り」に単純化された

2012年5月

### 神の教えは「世界平和の祈り」に単純化された

#### 「世界平和の祈り」に全託した人は真実に幸せである

昌美先生はあるとき白光誌で「我即神也の宣言は自分自身に向かってするもので、他人に向かってすることではない」という意味のことを書いていました。

昌美先生は、我即神也にしても人即神也にしても、従来は理想が既に実現されているかのような書き方をしておりますから、宗教を知らない普通の人に向かって「我は神なり」といきなり言ったら、「あいつ、この暑さで頭がおかしくなったんじゃないか」と疑われてしまいます。理想と現実とは実際は離れているのに、あたかも理想と現実が既に一体化しているかのように宣言することにはどうしても無理があるのです。このように、理想が実現していないのに、理想が実現したように宣言することには無理があるという事実が、昌美先生にもようやく少し分かってきたようです。その証拠が、「我即神也の宣言は人に向かってするものではなく、自分に向かってするものである」と表現が変化したことで見分かります。以前は『〇〇さん即神也』という宣言を富士聖地の挨拶の言葉にしよう」という提言もありましたが、この「〇〇さん即神也」という宣言も、実際には社会生活の中で使いにくいことが分かってきたらしく、一頃のようにあまり強く勧めなくなってきました。これは当然なことでありまして、どちらも理想に片寄った無理な宣言であるからです。現実離れした理想に片寄った真理の宣言というものは現実の役に立たず、現実には生かすことができないのです。

ですから、昌美先生の提唱の「我即神也・人即神也・人類即神也の宣言行」は、真理に把われ、理想に片寄った現実に役立たない教えであり、いずれは消えてゆく運命にあると私は説いているのです。私たちはその真実を初めから知っておりますから、無駄な行法に時間を費やさなくてすみますが、五井先生の教えを理解していない人々は、何が何だか判らぬままに、昌美先生を信じて無駄な行法に時間を費やしてしまっているのです。しかし、それも消えてゆく姿であるのです。

それに対して「世界平和の祈り」は、自分に向かって宣言するだけでなく、他人に対しても恥ずかしくなく宣言できる言葉です。他人に向かって宣言してはいけない「我即神也の宣言」と、誰に向かって言っても恥ずかしくない「世界平和の祈り」と、一体どちらが世界に広く普及するのでしょうか。その差は歴然としているではありませんか。「世界平和の祈り」の方が広く普及するのは当然です。祈り言というのは“常に祈る”ということで効果を発揮するのでありまして、常に祈ることのできない宣言の言葉では効果が現れては来ないのです。そうした観点からも、相手に向かって声に出して堂々と祈ることのできる

「世界平和の祈り」の方がはるかに祈りやすく、祈りの効果が発揮されると思います。

「世界平和の祈り」は神から授かった永遠の祈り言であり、世界に普及してゆきます。それに対して、肉体人間の浅知恵で考え出した「我即神也の宣言」の行法は、現実に役立たないので、いずれは消えてゆくことになるのです。それが私にはよく分かるのです。

「世界平和の祈り」一本槍の生き方が今後ますます見直されることになるでしょう。「世界平和の祈り」に全託している人は真実に幸せなのです。

### 今、光明燦然と輝く「世界平和の祈り」

人間は幾多の輪廻転生のうちに数え切れぬほどの小悟を体験し、次第に大悟へと歩んでゆくものです。一步前進したかと思うと後退したり、一時後退したかと思うと急速に前進するのが人間の心境であり、人類の進歩であり、宗教の道でもあります。これは「螺旋階段」に譬えることもできます。

ですから、たとえ人生において逆境や苦難に遭い、後退したように見えても、「これも進歩している過程なんだ、未来は必ずよくなるんだ」と明るい未来を信じて、守護の神霊に自己の天命の完うを祈り続けてゆくのです。過去世からの因縁を消すために今生で他界するまで恵まれぬ運命が続く人もおりますが、それでも「今からよくなるんだ」と神の愛を信じて祈り続けてゆくのです。

宗教というのは、今生の幸福だけを得る方法を教えるものではなく、永遠の人生における絶対幸福を得る方法を教えるものなのです。今生で現世利益的幸福が得られなくとも、不幸と見える人生であろうとも、貧苦で惨めな生活を暮らそうと、病苦があろうと、神への信仰を決して捨ててはなりません。永遠の幸福を得るために神に祈り続けるのです。そのような天に任せた生き方をしますと、過去世の因縁の流れを超越して、今生においても幸福に恵まれることがあるのです。

五井先生の教えは、易しいようでいて奥が深く、分かったようでいて実は分からぬ人が多いのです。そのために、自分が今まで知らなかった新しい思想に触れますと、五井先生の教えよりも進化した教えのように錯覚してしまい、折角五井先生の高い教えにつながりながら、低い宗教や他の思想に走ってしまう人が間々あるのです。その理由は、その人の心境が五井先生の教えを理解する段階には未だ達していないからで、その人の心境にとっては五井先生の教えがまだまだ高過ぎるのです。こうした場合、その人の現在の心境に応じた低い宗教団体や思想団体に入ってゆくことになるのです。私たちから見ますと実に惜しいことですが、しかし、これもまたその人の霊性開発の一つの段階として体験しなければならぬことで、その修行が終わり、心境が高まれば、その心境に応じてまた1ランク上の新しい宗教思想団体へと進んでゆくのですから、温かく長い目で見てあげることが大切なのです。

大悟の寸前には守護神から種々の試みが靈修行者に行なわれるのですが、その一つとして、「真理の言葉に把われない心境であるか？」という試みがあります。守護神は靈修行者に「真理の言葉」を教えます。そして、その靈修行者が「真理の言葉」に把われるか否かをじっくりと観察するのです。もしも信仰者が「真理の言葉」に把われますと、失格ということになり、双六のように振り出しに戻されます。もしも靈修行者の直覚が開いて、「真理の言葉」に把われず、神への全託の祈り言を祈り続けておられますと、守護神はその靈修行者に対して大悟の心境を授けるのです。

五井先生の教えを完全に理解した人は、「真理の言葉」に把われることはありません。ところが、五井先生の教えを理解できる人は実際には少なく、殆どの人が「真理の言葉」に把われてしまい、それ以上心境が上がらないまま不自由な階層で停滞してしまうのです。この「真理の言葉」への把われを放つことは容易ではありません。それは、守護の神靈に全託する祈り言よりも「真理の言葉」を宣言する方が、一見すると高い心境に見えるからです。「人々に自己を神の如く偉く見せたい」という欲が少しでもありますと、その欲を満足させる「真理の言葉」という落とし穴にすっかり陥ってしまうのです。

五井先生の新しい「中庸光明思想」の教えが現れながらも、真理に片寄った古い「真理偏重光明思想」に把われてしまうのは惜しいことですが、これも一時的現象でありまして、業想念の消えてゆく姿であるのです。神のみ心に叶った真実の教えが、誤った宗教観にいつまでも覆い隠されているはずがありません。五井先生の真実の教えを復活させるために、私は天から遣わされてきました。「世界平和の祈り」は厳しい試練に鍛えられ、前にも増してその美しい輝きを放っています。私が「世界平和の祈り」を再び説き始めると、「世界平和の祈り」の超越力を改めて自覚した人々が私の下に集まり出したのです。

この地球世界は核戦争の危機で破滅寸前に見えましても、それでも、なお地球人類は確かに進化を続けているのです。「世界平和の祈り」は一時人々の記憶から忘れられ、後退したように見えましても、着実に地球に根つき広がっているのです。五井先生が肉体界を去りますと、「世界平和の祈り」に情熱を燃やしていた人々も、「世界平和の祈り」をついつい忘れがちになってしまいました。やはり多くの信仰者にとりましては、目に見える肉体を持った「世界平和の祈り」の中心者という存在が必要なのです。「世界平和の祈り」の中心者が肉体界にいることによって人々の信仰心は熱く燃え立つのです。

「世界平和の祈り」は、五井先生が肉体界におわした当時だけに通用した時代遅れの古い祈り言ではありません。「『世界平和の祈り』はもう古い」と言う人がいますが、それは飛んでもない妄見です。「世界平和の祈り」以外に地球破滅の危機から救う方法はありません。そのためには、神仏を信じている地球の宗教信仰者全てが宗教宗派を超えて、各々の宗教教団にまつわる名誉欲や権力欲をきれいさっぱり捨てて、世界平和実現という大目標の下に「世界平和の祈り」を祈る必要があるのです。今や宗派争いをしている時ではありません。私たちは心一つにして「世界平和の祈り」を祈らなければならないのです。

「世界平和の祈り」の中心者が、「この祈りで果たしてよいのだろうか？」とフラフラと迷っているようではいけません。今さら何を迷うことがあるでしょう。「世界平和の祈り」の大光明力を信じられないような、そんなあやふやな心で、何で「世界平和の祈り」を広めることができるでしょう。私たちは「世界平和の祈り」を絶対力を信じております。「世界平和の祈り」を朝から夜まで一日中祈っているのは私たちであるのです。「世界平和の祈り」の中心者は、誰でもない私たちなのです。「いや、『世界平和の祈り』の中心者は私の方だ」と主張する人がいたら、その人はどんな行法よりも「世界平和の祈り」を優先して祈らなければなりません。他の行法を優先したり併用している人が「世界平和の祈り」の中心者と言う資格はありません。「世界平和の祈り」の大光明は私たちを中心に放射されているのです。

五井先生によって誕生した「世界平和の祈り」は、50年間、批判や嘲笑の風雨にさらされながらも、挫けることなく、光をいよいよ増しながら今日まで発展してまいりました。私たちは神の厳しい試練に打ち勝ち、「世界平和の祈り」を守り抜きました。神は試練によって私たちを鍛えて下さったのです。

私たちは、神の試練によって「世界平和の祈り」の深い意味を悟ることができました。厳しい試練を乗り越えた今、「世界平和の祈り」が闇に隠れることはもう二度とありません。「世界平和の祈り」は今、私たちと一体になって光明燦然と輝いているのです。

## 神の教えは「世界平和の祈り」に単純化された

《…神のみ心は最高、最深のところに置いたままで、たやすくその神のみ心にとどき得るような教えの単純化こそ、人間の理想なのである。それを成し遂げたのが、日本の法然、親鸞の念仏信仰であり、真実のキリスト教の「イエスの御名によって神に接し得る」という教えである。

「南無阿弥陀仏」の六字の称名により、あるいは「イエスの御名」という容易な行為によって、救われに入れるという信仰は、実に複雑なる真善美を単純化せる信仰方法である。そして、そうした信仰行為が、日本神道という神代時代の再現になってゆくのである。…》

五井昌久著『神への郷愁』（白光真宏会出版局）より抜粋 p.27

### 【解説】

宗教者が真理をしっかりと自己のものにしていないと、その内容が統一されず、バラバラに表現されるため、その教えはやたらに複雑になってしまいます。これは「統一されていない複雑さ」であり、一方、単純化しても、重要な急所が外れた「的外れの単純化」では、これも意味のないものとなってしまいます。神のみ心をわざと複雑化、儀式化、戒律化して、神と人間とをかえって引き離してしまっている教えもあれば、単純化を低俗化と間違えて、念力による願望成就法を説いて、神のみ心を物質利益という低い階層に引き下

ろしてしまっている教えもあります。

五井先生のみ教えの特長は、深遠な宗教の内容を「世界平和の祈り」という一つの行法に単純化したところにあります。宗教の行法の単純化はもちろん五井先生が初めてではなく、「南無阿弥陀仏」を民衆に教えた法然、親鸞の他にも、神道の「(神様) 祓い給え、清め給え」という祝詞など古くから発案され行なわれてきています。

昔は今のよう紙が豊富にあるわけではなく、本がたくさん印刷されているわけでもありません。文字を知っている人もごく一部の人だけだったでしょう。殆どの人々は難しい文字を知らず、文字を読めない無学の人だったのです。そうした時代にあって民衆を救うためには難しい経典では役に立ちません。そこで昔の宗教者は、民衆を如何に救うかを考え、「南無阿弥陀仏」のような短い祈り言を発案し、民衆に唱えさせようとしたのです。そして、称名念仏に触れた多くの人々が救われたのでした。

それに対して、現代は殆どの人が文字を知っておりますから、経典の翻訳を読むことができます。しかし、現代は昔のようなのんびりとした時代と違い、仕事や家事や育児に一日の大半を費やさねばなりません。仏教の経典は膨大な量があり、その全てを読んで理解するということは宗教を専門とする学者だけが為しうることでありまして、忙しい現代人にはとても無理なことです。現代人は別の意味で長い経典を読むことはできないわけです。般若心経のような短いお経でさえも、日々続けている人はそう多くはないと思います。現代では短時間で実行できる短い祈り言が必要であるわけです。また、たくさんの祈りの行法がありますと、車に轢かれそうになった時とか災難に遭いそうになった時など、咄嗟の時に何を祈ったらよいのか迷うのではないかと思います。迷っている隙間に業想念がドツと入り込んでくるのですから、少しの間でも迷ってはいけないのです。複雑な行法では、咄嗟の時に迷ってしまい、祈りの効果が現れません。それに対して、日頃から一つの祈りの行法に徹しておりますと、咄嗟の瞬間にも祈り言を思い出すことができ、神のみ心に即座に統一することができるのです。

「世界平和の祈り」は、神のみ心の深奥にまで到達することのできる宗教上における最高の方法であるのです。「世界平和の祈り」を祈っていさえすれば、個人の靈性開発はもとより人類の平和は実現されるのです。潜在意識層に厚く重なっている業想念の種類によっては、消えてゆくのに数年から数百年と長い時間がかかるために、「世界平和の祈り」を熱心に祈っても業想念が消えてゆく実感がないかも知れませんが、業想念が消えているのは事実なのです。「世界平和の祈り」の効果を疑わず、祈り続けてまいりましょう。

神の教えは「世界平和の祈り」という一つの行法に単純化されたのです。

## 今から「世界は平和になる」と信じて祈り続ける

あなたは今から幸福に生きられる

若いころ五井先生のご著書を読んで感激しながらも、目の勉強や仕事に集中しなければ

ばならず、宗教の世界に深入りできなかつた人が、現実生活でようやく少しゆとりができ、経済面も家庭面も落ち着いてきて、再び人間の本質を探究したいという宗教心が甦り、本格的に祈りの生活を始める、という方々が少なくありません。人生で再び信仰心の火が燃え始める、ちょうどその頃に運よく唯一会を知り、「世界平和の祈り」を祈り始めた方々が、KさんやUさん、Aさん、Jさん、Oさんたちです。唯一会の会員の中には、五井先生のご著書を読んだばかりの人は少ないのです。長年五井先生の多くのご著書をよく読み、ご自分で研究し、白光真宏会の実情も深く知って、慎重に熟慮を重ねた上、直観で唯一会に飛び込んできた人たちですから、全くの初心者と違って、既に揺るがない信仰心を持っているのです。私が本を出版しないこともあって、唯一会のことも私のことも知る人は少ないのですが、このインターネットによるHPだけで、これだけ素晴らしい人物たちが唯一会に集まってきて下さったことは、私にとっては奇蹟であり、五井先生の力強いお導きとご加護を感じて大変嬉しく思っているのです。

宗教の道は、高い理想を掲げながらも、地に足をつけた現実生活の中で誰でも易しく実行できる道でなければなりません。いつも申しておりますけれど、「ラジオ体操が健康にいい」と分かっている、学校や職場で強制的にやらされてもしなければなかなか長続きはいたしません。長続きしなければ、どんなに健康にいいラジオ体操にしても効力を発揮しません。それと同じように、一年に一回滝行をしたり山中で座禅をしても、やらないよりも少しはよいかも知れませんが、靈性開発には大して役立ちません。宗教の行法というのは、毎日たゆみなく行じてこそ神秘的な道力どうりきが備わってくるもので、たまに修行の真似ごとをしたくらいでは駄目なのです。

そこで一番易しい靈性開発しょうみょういき行を工夫研究してゆきますと、阿弥陀仏の名をひたすら称えるというような称名行しょうみょういきに行き着くのです。『南無阿弥陀仏』と称えるだけで救われる」という称名念仏ほど易しい行法はありません。「南無観世音菩薩」と称えたり「キリスト・イエス様」と称えるのも同じ称名行でありまして、神仏や聖者の名を常に称えていけばその人は必ず救われるのです。

ところが現代に至って、個人の救われだけではどうにもならない時代になったのです。地球が核戦争で滅亡しては個人の幸福はありません。自分や家族の幸福だけを追い求めていることはできなくなったのです。現代は、どうしても世界の平和を樹立しないことには自分自身の幸福さえも得られない時代になっているのです。もし他国で戦争があれば日本も多大な影響を受けますし、戦争に加わらない日本人も安閑としてはいられなくなります。他国の治安維持のために、日本人も戦場に赴かなくてはならなくなるかも知れません。日本人だけが「我、他国に関与せず」と逃げたいはいられないのです。

もちろん日本がどのような状況になろうと、世界が核戦争の危機にあろうと、「南無阿弥陀仏」と称えたり「キリスト・イエス様」と称えている個人はそれで救われるのです。しかし、今までの称名行では、個人の魂は救えても、人類の平和を創り出す力はありません。

ん。神仏の固有名詞で宗派争いをしたり、読経するお経が異なっていて、一人の釈尊を信奉する仏教者でさえ心が一つにはなっておりません。ましてや習慣や風習の異なる他国の他宗との融合ははなはだ難しいと思います。地球人類は心をついに結んでこそ各国の人々の長所がいかんなく発揮できるのでありまして、個人個人、各国がそれぞれ勝手に活動していても、世界平和という大きな目標を達成することは不可能なのです。

そこで神仏の固有名詞をめぐって宗派争いをする必要がなく、神仏のみ心と地球人類の悲願をついにし、個人の幸福と世界平和を同時に実現できる現代にふさわしい祈り言が必然性をもって生まれたのです。それが五井先生ご提唱の「世界平和の祈り」なのです。この「世界平和の祈り」は称名念仏と同じく易しい称名行ですが、神仏の名を称える代わりに、神仏の慈愛のみ心そのものを称えるのです。これならば神仏の名を巡って争う必要もありませんから、どの宗教者も抵抗なく唱えることができます。地球が破滅するか、真の平和を確立するかの大事な瀬戸際の現在に最もふさわしい祈り言でもあります。

世界人類が平和でありますように  
世界人類が平和でありますように  
世界人類が平和でありますように

と祈っておりますと、先祖霊、守護の神霊、宇宙神のみ心と巧まらずして一つに同調してゆきまして、人間本来の神の分霊としての自己の霊性が発現されてくるのです。そして、人類の霊性も開発されてゆき、無理に妥協したりしなくても、時間がたつうちに人類は自然に調和してゆくことになるのです。人類の霊性が開発されてくるということは、人間の行為の中に神の完全な愛、智慧、真<sup>まこと</sup>が現れてくることで、病気も不幸も戦争も消え去り、私たちが日々生きることにより喜びを感じ、愛することを喜び、科学の発展を喜び、幸福な人生を送ることができるようになる、ということです。

地球人類の世界平和への道は、もう既に「世界平和の祈り」によって確立されました。未来の地球を恐れたり悲観することはもうありません。戦争によって地球が破滅に至ることはありません。地球は必ず平和になるのです。私たちは「世界平和の祈り」によって救われたのです。私たちは必ず幸福になることに定まっているのです。後は時間の問題だけです。「世界は平和になる」と知っている私たちは何という幸せ者でしょうか。「毎日が明るく楽しく微笑んで生きられるようになる」と知っている私たちは何という幸せ者でしょうか。

「必ず目標地点に到達できる」と信じた瞬間から、わくわくとした楽しい旅が始まるように、「『世界平和の祈り』によって世界は平和になる、私は幸福になる」と信じた瞬間から、たとえ現在無一文で経済的に恵まれない環境にいたとしても、あなたは「今から幸福になることができる」のです。人間というのは不思議な存在です。今日1円のお金がなくとも、「明日になれば宝くじで当たった1億円が手に入る」と信じますと、まだ1億円が実際に手に入っていないにも拘らず、当選を信じた瞬間から喜びを感じるのです。その

ように、今の環境がどのような不幸な環境であろうと、「明日、私は幸福になる」と本当に信じれば、あなたは明日まで待つ必要はありません。今から幸福になることができます。「世界は平和になる」と信じて、今から幸福を味わいつつ、「世界平和の祈り」を祈り続けましょう。

### 神様、平和科学を授け給え。

皆さんも最近のニュースでご承知と思いますが、車を走らせるエンジンの燃料であるガソリンの代わりに 100 %アルコールでできたアルコール燃料を発明した日本人がいます。ガソリンは地下を深く掘って採掘した原油を加工したものであり、その資源には限りがあります。それに対してアルコール燃料は植物から生成できるのですから、資源は無尽蔵にあります。しかもガソリンのような汚れた排気ガスが出ません。もし東京の車が全てアルコール燃料で走るようになれば、東京の空は見る見るうちにきれいになってゆき、排気ガスによる公害患者はなくなるでしょう。このアルコール燃料は、エジソンの電灯の発明に匹敵するほどの絶賛すべき画期的発明であると思います。これから始まる 21 世紀は、人類の霊性開発面としては「祈りによる世界平和運動」が広まってゆき、科学面としては人類に幸福をもたらす驚異の発明が次々と現れることでしょう。画期的なアルコール燃料の発明はその先駆けなのです。

先日、私は静岡県富士宮の自宅から宮城県気仙沼までカーナビを頼りにドライブしました。約 10 時間で 660 km 先の目標地点に到着しましたが、カーナビがあれば日本中どこへでも迷わずに楽に行くことができることが分かりました。首都高の複雑な道路もスイスイと通り抜けることができました。これも地球上をグルグルと飛び回っている人工衛星のお陰です。また、今日私は銀行で「インターネットバンキング」の申し込みをしましたが、これは自宅にいながらパソコンで銀行口座の残高照会や振替サービスができるシステムで、私のように街から離れた森の中で暮らす人間にとっては非常に便利です。このように私たちの生活は日々瞬々科学的に進歩しております。

また最近、携帯電話の電波を遮断する機器が日本人によって発明され、携帯電話が鳴っては迷惑するコンサート会場に実際に使用されるようようになりました。この電波遮断機器を応用すれば、たとえば他国の軍事兵器のコンピュータを作動させている電波を、衛星から遮断電波を送って遮断することも不可能ではありません。そうなりますと、コンピュータを用いている全ての兵器は使い物にならなくなってしまいます。これは防衛する機器ですが、他国の軍事力を停止させて自国の軍事力だけを操作できることとなりますと、圧倒的な軍事力を得ることができます。もしも狂った指導者がこの科学機器を先に手に入れたら大変な事態になりますが、真実に平和を祈る指導者にこの知恵は与えられるのです。

もう一つは医学面です。病気の苦しみを根本からなくす医学が望まれます。多くの病気がありますが、たとえばベッドの上に寝ていると、頭の上から爪先までスキャンして病気の部分を探し出し、その病気を癒す治療波動が自動的に病気の部分に照射され、10 分ほどで完全健康体になってベッドから下りる、というような治療機器を作っていただきたい



ものです。光線を利用したレーザー治療は既にありますが、人体にある波長の光を当てて癌を捉えることもできるようになったそうですから、それぞれの治療に適した治療波動を発見するのもそう遠くはないでしょう。

五井先生は「祈りによる平和運動」を中心になさっていましたが、「平和科学」の必要性をも説かれていました。科学に関心のある方は、「世界を破壊する科学」ではなく「世界を平和にする科学」をぜひ研究していただきたいと願っております。

「世界平和の祈り」を祈っていれば、天命のある人には平和科学の知恵を授けて下さるはずで、私の天命は五井先生の教えを易しくお伝えすることだけで、平和科学を発明する役目はないと思っております。ですから、「未来の平和科学の数式を教えてください」と言われても教えることができません。

科学の道を進む人は、「神様、平和科学を授け給え」と祈りつつ研究を進めてゆくならば平和科学の知恵を授けられます。「世界平和の祈り」によって平和科学が授けられるのでありまして、その他の方法では平和科学は授かりません。『世界平和の祈り』の他に何かもっと優れた祈り方やよい方法があるのではないかと迷ってはなりません。「宇宙子科学をやりたい人は、『世界平和の祈り』だけでは駄目だ。別の行法をやらなくてはいけない」と言われても、「ああ、これも消えてゆく姿」と否定しなければなりません。

「世界平和の祈り」以外の奇異な方法を勧めるのは全て神の試みであるのです。その試みにうっかり引っかかってはいけません。「世界平和の祈り」の中に「自分を偉く見せたい」という虚栄心を捨て去り、自我欲望を捨てることこそ私たちの天命であるのです。甘い誘いに乗って大事な「世界平和の祈り」を捨ててはなりません。

## 質疑応答 1 : 生長の家の神示に既にあった「世界平和の祈り」！

### 【ご質問-1】

生長の家でも「世界平和の祈り」がありますが、生長の家の「世界平和の祈り」は次元が低いのでしょうか。同じ「世界平和の祈り」でしたら、白光真宏会や唯一会の人にも賛同できると思うのですが？ もし違うと言われるなら、どうして優劣をつけるのでしょうか。

### 【お答え-1】

生長の家には二つの祈りの行法があります。一つは真理宣言形の祈り方で、もう一つは神への対話形の祈り方です。

まず生長の家で用いる「世界平和の祈り」（真理宣言形）とは以下のような言葉です。

《われは神と一体である。われのみならず全人類は神と一体である。それゆえに全人類は神に於いて完全に平和であり、争いの心はないのである。神は全人類の父でありたまひ、すべての民族を平和に護りたまうのである。或る民族が他の民族の領土を侵さなければ、その民族が幸福になれないなどということはないのである。この真理をさとるとき、世界に平和は来るのである。われは全人類にこの真理を放送するのである。全人類はこの真理の念送を今受信しつつあるのである。神の愛がすべての人類に降りそそがれ、神の平和が地上にあまねく臨む。すでにみこころは天になるが如く地にも実現したのである。今より後、人類に戦いがあることなく、悲しみあることなく、地の万民は天の父を仰ぎみて讃歎するのである。》

この祈り方を生長の家では「神想観」と言います。

それと共に、守護の神霊への対話形の祈り方として、「世界人類が平和でありますように」とか「世界人類が幸福でありますように」という五井先生の説く「世界平和の祈り」と全く同じ表現の祈り言も生長の家（谷口雅春教祖）の本にはあるのです。これは「消えてゆく姿」という言葉と共に神示として書かれたのです。つまり、「消えてゆく姿」という言葉も「世界人類が平和でありますように」という言葉も、五井先生が初めて使ったのではなく、谷口雅春教祖が初めて書いた言葉であるのです。

「消えてゆく姿で世界平和の祈り」という教えは、谷口教祖を通して神霊が神示として書かせた文章であったのですが、残念なことに、折角神示として書かれながらも、その神示は厩大な宗教知識の中に埋もれてしまい、忘れ去られてしまったのです。そして生長の家では、神への対話形の祈り方よりも真理宣言形の「神想観」の方に重点を置いて指導するようになったのです。

生長の家には、ご存じのようにたくさんの書物があります。教えを広めるためには書物が多ければ多いほどよいのは確かですが、生長の家の教えは、実相論、現象論、欧米から輸入されたクリスチャン・サイエンス論などを説いているうちに、宗教のデパートと言われるようにごちゃ混ぜになってしまい、一つの原理（一元論）に統一されなくなってしまったのです。そして、「人間神の子、完全円満」という実相論と「心の法則」という現象論の二元論が残り、実相を観じる「神想観」という行法が残ったのです。

五井先生は、生長の家の講師として生長の家の講師たちや信者さんたちの実際行動を見ているうちに生長の家の教えの欠陥に気がついたのです。そして、生長の家の教えに既にあった「消えてゆく姿で世界平和の祈り」という神示の重要性を発見し、この一つの行法だけを教えることにしたのです。このことにより谷口教祖に神示を授けた神霊は五井先生へと移られたのです。従いまして、谷口教祖が書かれた「世界人類が平和でありますように」と、五井先生の提唱されている「世界人類が平和でありますように」とは全く同じ祈り言であるのです。しかし、生長の家では「世界人類が平和でありますように」の祈り言は谷口教祖のご本の片隅に記録として残っただけで、生長の家の教団の行事として採用さ

れることはなかったのです。これは実相論という真理を強調するあまり、真理に把われて守護の神霊への祈り言を軽視してしまったことによるのです。その後、生長の家の教えの中で忘れられ埋もれてしまった「世界人類が平和でありますように」という祈り言を五井先生は発掘され、教えの中心の祈り言として定めたのであります。

五井先生の教えと生長の家の教えの違いは、五井先生が守護の神霊への祈りである「世界平和の祈り」を唯一の行として定めたのに対して、生長の家では「守護の神霊への祈り言」の他に、「実相を観じる神想観」「心の法則論」など余計な行法を付け加えてしまった点にあるのです。「神想観」すなわち「真理宣言行」には、正直に生きられなくなる、偽善者になるという非常なる欠陥があり、「心の法則論」には、自分を責め人を責めるという思わぬ欠陥が潜んでいるのです。五井先生と私はそうした欠陥を指摘して皆さんに注意を促し、危険を警告しているのであり、「『世界平和の祈り』は欠陥のない完全な祈りであるから、『世界平和の祈り』一本で生きた方がいいですよ」と五井先生も私も口を揃えて説いているのです。「世界平和の祈り」の完全性に一日も早く気づいて下さい。

## 質疑応答 2 : 「世界平和の祈り」によって世界は平和になります

### 【ご質問-2】

祈りが個人の救済になることはあっても、世界人類の救済になり得るのでしょうか？  
祈りで世界人類は平和になるのでしょうか？

### 【お答え-2】

「『世界平和の祈り』は個人の救済と同時に世界人類の救済になり得る」  
「『世界平和の祈り』で世界人類は平和になる」  
と私は確言します。

個人で祈るのは基本ですが、「世界平和の祈り」は集団で祈る場合にもふさわしい祈り言です。現在「世界平和の祈り」が如何に世界に広がっているかを知るには、五井平和財団発行の機関誌「平和の創造」をご覧になればよくお分かりいただけると思います。もっと知りたければ、五井平和財団主催の1万人の平和集会に参加するとか、アメリカのアメニアで開催される1万人以上の大規模な平和集会に参加して、「世界平和の祈り」を一緒に祈ってみる事です。そうすれば、「『世界平和の祈り』によって世界は平和になる」という実感を掴めるはずです。若いのですから、机の上で空想していないで、自分の足で歩き、自分の目で「祈りによる世界平和運動」の活動を見る事です。

### 【ご質問-3】

世界に平和が訪れるとして、こういったプロセスを経て達成されるのでしょうか？

**【お答え-3】**

次のようなプロセスで世界は平和になります。

- (1) 「祈りによる世界平和運動」の書物が世界各国の言語に翻訳されて出版される。
- (2) 世界各地の市民の間で「祈りによる世界平和運動」が実行される。
- (3) 国連および世界の国の公の機関が「祈りによる世界平和運動」を実行する。
- (4) 「世界平和の祈り」が世界のテレビ・ラジオで常に放送されるようになる。
- (5) 世界の宗教者が「世界平和の祈り」を合言葉に定めるようになる。
- (6) 怒りや争いの想いが消え去り、世界の人々の心が平和になる。
- (7) 医学が発達し、全ての病気を治癒したり予防することができるようになる。
- (8) 世界各国から核兵器をはじめとする軍事兵器が廃棄される。
- (9) 世界人類が神性を顕現し、神の子の姿を現す。
- (10) 日本が平和になり、世界が平和になる。

**【ご質問-4】**

いつまでに世界は平和になりますか？

**【お答え-4】**

はっきりと答えることはできませんが、私は西暦 3000 年を世界平和実現の期日として努力しております。